

県北地区

地域の方による 家庭科支援ボランティア

～一人一人のペースに合わせて～



花輪北小学校支援地域本部

鹿角市立花輪北小学校



◇活動の紹介

○ねらい

年間計画に基づいて家庭科の学習に地域人材を活用し、児童の実態に応じたきめ細かな指導を充実させる。

○これまでの取り組み

- (1) 募集用紙の配布
- (2) 登録者への連絡及び退職教職者の会への働きかけ（コーディネーター）
- (3) 一回目の参加ボランティアによる呼びかけ（口コミ）



ボランティアの支援により、時間いっぱい意欲的に作業を進めることが可能に。

◇この活動を行って

○成果

- ・個に応じたきめ細かな指導により、基礎・基本の定着が顕著である。
- ・日常生活に直結した家庭科を学ぶよさやできた喜びを多く体得することで、家庭科好きの子どもたちが育っている。
- ・安全面でも非常に有効である。
- ・家庭科の学習では、子どもたちが地域の方々の指導を受けることが日常的になり、自然な形で交流も深まっている。
- ・先生方にとって、最初はボランティアを活用することに若干の戸惑いがあったようだが、指導の負担が軽減され、しかも指導効果がはっきりと表れたことにより、「学校支援地域本部事業」のよさを改めて見直すとともに、

積極的に外部の人材を活用しようとする気運が高まった。

- ・家庭科支援ボランティアの方々の充足感も高く、子どもたちのためになっていることに喜びを感じている様子が見ええた。自己実現の機会にもなっている。
- ・学校評議員や保護者などからも、人材活用が有効に作用している旨の意見が寄せられ、学校評価にも反映されている。

○課題

- ・授業のねらいを明確にし、教師との役割分担を事前に確認するなど、十分な打ち合わせが必要である。また、実施後にも家庭科支援ボランティアと事後の反省をしたり、事後の評価を受けたりすることも、その後の学習活動充実のために必要であるとする。ただ、実際には打ち合わせの時間の確保が難しい。
- ・今後も、全職員が共通理解を図りながら継続し、同一歩調で取り組む必要がある。そのためにも、家庭科支援ボランティアの活用を組み込んだ、よりきめ細かな支援計画の作成が望ましいと思われる。
- ・家庭科支援ボランティアを含め、学校支援ボランティアの控え室や、指導に係る必要物品の準備等、ハード面での整備が必要である。
- ・学校支援ボランティアが固定しがちであるため、より多くの方々に参加を呼びかけていきたい。そのためにも地域の婦人会や老人クラブなどの団体との連携強化に努めていきたい。



支援ボランティアと会話することで自分の考えを整理できることも。必要以上に手を貸さないという共通理解も図っている。

○児童の感想「家庭科の学習から」

5年生になって、家庭科の勉強が始まりました。

針と糸を使って玉結びや玉どめをする時、なかなかうまくできなくて困っていました。そんな時、お母さんやボランティアの高杉さん、4年生の里穂さんのお母さんたちが来て、「つめを使うといいよ。」などと、コツを教えてくださいました。言われた通りにやってみたら、上手にできるようになりました。

僕は、お母さんたちに教えてもらったことを生かして、これからもいろいろなものを作りたいです。

家庭科の時間がとても楽しくなりました。



○保護者の感想「家庭科ボランティアを行って」

「このやり方を教えてください。」

私が北小の家庭科で裁縫をお手伝いをするようになって、子どもたちからこのようにお願いされることが増えました。

最初にボランティアを引き受けたときには子どもにも少し戸惑いが見られ、お互いにぎこちない部分があったのですが、今は気軽に声をかけられるようになりました。私自身も自分の子どもに教えるのと違い、新鮮な気持ちになりますし、何よりも子どもたちが一生懸命がんばって作品を完成させた時に見せる笑顔は本当に素敵で、私たちも本当にうれしくなります。こんな時は、ボランティアをやったよかったと思います。

これからも、家庭科だけでなく、いろいろなことにお手伝いしていきたいと思います。

○職員の感想「家庭科支援ボランティアの協力を得て」

5年生では、日常の生活の中で針をもったことのない子どもがほとんどでした。

そのため、「針と糸を使ってみよう」の学習では、画像を用いて玉結びや玉どめの仕方について全体指導を行いました。その後、小グループに一人ずつボランティアの方々が入り、支援してくださいました。

子ども一人一人の進度が違う中で、実際に手を添えてそれぞれの実態に応じたきめ細かな指導をしてくださったため、時間を持て余す子どもが全く見られませんでした。そして見守る時は見守り、アドバイスするときはアドバイスし、必要に応じて手を添えるといったように、一人一人に対応して具体的に支援して下さるので、本当に助かりました。次の活動に見通しを持てないでいる子どもへのアドバイスも的確で、助かりました。

退職された先生や、学校や子どもの実情をよくご存じの地域の方々だからこそできる支援だと思いました。

おかげさまで、予定していた時間よりも早く作品を完成させることができ、その後の時数にもゆとりが生じました。

○ボランティア募集ちらし

保護者の皆様へ
平成21年5月19日
鹿角市立花輪北小学校
校長 佐藤 和広

花輪北小学校 学校支援地域本部事業
「学校支援ボランティア」大募集!!

日ごろより、本校の教育活動にご理解とご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。さて、昨年10月より本校と平元小学校の2校が文部科学省「学校支援地域本部事業」に取り組みしておりますが今年度も継続することとなりました。これは地域の方々、ボランティアとして学校の活動に参加し、支援を行い、様々な知識や経験を学校活動で生かしていただくという趣旨のものです。いわば地域の方々による「学校の応援団」のようなものです。

これまでも保護者の皆様には、学校行事や昼下校の安全指導など、各方面で様々な形で支援していただいておりますが、今年度も「学校支援ボランティア」という名称で、本校の教育活動にお力を貸して下さる方々を再度募集いたします。もちろん、既に協力して下さっている方々でも、これから協力をお考えの方でも、どなたでも結構です。

学校の花壇の手入れをして下さる方、調理実習のお手伝いに来て下さる方、部活動のコーチや、学校行事の準備手伝いをして下さる方、野菜づくりを教えてください下さる方、ご自身の体験を話して下さる方など、専門技術を生かすものから、どなたにでも気軽にできるものまで、幅広く募集します。お子さんのいらっしゃる学級以外でもお手伝いをいただける方が対象となります。

ご協力いただくことになった方には、花輪北小学校の「人材バンク」に登録させていただきます。下記の内容でお申し込みをさせていただきます。子どもたちの健全な成長のために、お力を貸していただければ幸いです。お待ちしております。(締め切りはございません。随時、募集しております。)

登録をしたからすぐに学校に行かなくていい、ということはありません。学習活動に際しては、必ず「今回はこのお手伝いをしていただきます。」という時に、学校側から声をかけますし、ボランティアの登録がない場合もあるかもしれません。もちろん、登録されても都合のつかない場合は、お断りしても結構です。どうぞお気軽にお申し込みください。なお、個人情報等は、この事業に関するものにのみ使用させていただきます。

申込先 鹿角市立花輪北小学校 2F 花輪北小学校「学校支援地域本部」
地域コーディネーター 吉田和廣 教頭 柏崎英人
TEL 23-2603 FAX 23-2617

鹿角市立花輪北小学校 「学校支援ボランティア」申込書

お名前	姓	名
ご協力いただける分野		
ご協力いただける曜日・時間帯	1いつでも可 2月・火・水・木・金 3午前・午後(時 分 ~ 時 分) 4その他	
ご要望など		

○学校支援ボランティア活用計画

学校支援ボランティア活用計画(家庭科)		
単 元 名	支援 時数	ボランティアの主な支援内容
5 年	わたしにできることをやってみよう (3) 針と糸を使ってみよう	3 ○針と糸の基本的な使い方を支援していただく。 ○手順にしたがい、小物づくりを行う活動を支援していただく。 ・玉結びや玉どめへの個別支援 ・なみ縫いや返し縫いの個別支援 ・小物づくりへの個別支援
	布で作ってみよう (2) ミシンを使ってみよう (3) 楽しく使ってみよう	3 ○ミシンを使う活動を支援していただく。 ○手順にしたがい、お弁当袋を作る活動を支援していただく。 ・ミシンの調節とミシンの使い方の個別支援 ・用具の安全な取扱いの個別支援 ・お弁当袋づくりへの個別支援
6 年	生活を楽しくする物を作ろう (3) くふうして製作しよう	3 ○手順にしたがい、エプロンを作る活動を、支援していただく。 ・しるし付けとしつけへの個別支援 ・ミシンの縫いとポケット付けの技術指導
	楽しい食事を工夫しよう (1) 1食分の食事について考えよう (2) 調理の計画を立てて作るう	2 ○子どもたちが考えた1食分の食事に対し、栄養的なバランスが取れているか、全体のアドバイス及び個別のアドバイスをしていただく。 ○各自が考えた計画によって、実際に調理する場面を支援していただく。 ・安全面の見届け ・ジャガイモの芽を取るなどの技術指導 ・用具や食器の衛生的な取扱いへの支援

保護者と地域住民による 学校支援ワークショップ

～子どもたちや学校のために
何ができるのか、まずは考えてみよう～



平元小学校支援地域本部

鹿角市立平元小学校



◇活動の紹介

○ねらい

今まで以上に地域住民が積極的に学校活動へ参加し、さらに一歩進んだ支援をするために何ができるのか、ワークショップ形式で話し合い、地域の人材育成を図る。

○日時

平成21年10月7日（水）18：00～19：10

○場所：平元小学校 図書室

○テーマ

「学校を支援する体制づくり」

○対象

P T A 会員、地区代表委員、学年評議委員、スポーツ少年団親の会、自治会長、平元コミュニティ（婦人会、老人クラブ等）、学校支援地域本部事業実行委員、平元小教員

○展開方法

①ワークショップ（45分）

ファシリテーター：「かづの21プラン」

（市内のNPO団体）

作業1：自分たちにできること

作業2：できないこと、その理由

作業3：発表

事前に学校側からの支援依頼をもとに、4つのカテゴリー（学習支援・教員補助・放課後対策・環境整備）に分け、それぞれどのような内容で支援を求めているのか、一つのカテゴリーにつき3つずつ提示した。

参加者を4グループに分け、グループごとに一つのカテゴリーを割り当てて作業をした。

②先進校のDVD鑑賞（20分）

- ・東京都小平市立第六中学校の取り組みの様子を観る。



◇この活動を行って

○参加者の感想

（保護者）

- ・先生たちのことが分かった。今まで学校のことに手を出してはいけなかったと思いこんでいたが、お手伝いしてもよいのだと分かった。

（地域住民）

- ・子どもたちや学校のために何ができるのか、これだけのアイデアが出るのは素晴らしいことだ。

- ・みんなが協力すればできることがたくさんある。これからも力を合わせていきたい。

- ・自分たちが今までやってきたことに自信を持って活動していけば、出された課題も解決できるだろう。

（ファシリテーター）

- ・ワークショップが初めての方ばかりだったのに、素晴らしい意見が多く出ていた。自分の考えをきちんと持っている大人が多い。

（学校側）

- ・今回の学習会のように、ちょっとした確認や共通理解ができれば、目に見える形となって学校支援が広がっていくと思う。今回出された課題をぜひクリアしていきたい。

○成果と課題

- ・子どもや学校のために何ができるのか、地域住民が考えるきっかけになった。

- ・みんなが一体となって支援することのよさを確認できた。

- ・学校支援ボランティアを広げるために解決すべき課題が明らかとなった。

☆時間が短く、課題解決の糸口を話し合うまでには至らなかった。

☆今後は課題解決の方策について考える機会が必要である。

○今後の予定

- ・今回の研修会の様子を地域全域に伝え、学校支援ボランティアについてさらに周知を図る。

- ・課題解決をねらいとしたワークショップを開催する。

●活動のようす●



ワークショップの様子

○参加を呼びかけるチラシ

学校支援地域本部事業

平成21年度 「平元小学校支援ワークショップ」のご案内

学校を支援する体制づくり！

○日時 平成21年10月7日(水) 10時～11時10分
(受付 17時～18時)

○会場 平元小学校 図書室

○日数 17:30～ 受付
18:00～19:00 ワークショップ・まとめ
19:00～19:10 DVD上映

○内容 学校の主力の先生は、職能よく役割分担して取り組んでおり、皆
前もって準備ができています。今までも平元小学校では、地域全体
で学校の改善に取り組んでいただいていたが、もう一歩進んで取り組んでい
ませんか？

○お申込み 参加費、会場費、印刷費はすべてワークショップ費でまかないます。

○お申込み 参加費、会場費、印刷費はすべてワークショップ費でまかないます。

○主催 鹿角市学校支援地域本部事業、鹿角市教育委員会

(お問い合わせ) 鹿角市教育委員会 学校支援課 030-0292

主催は鹿角市学校支援地域本部事業
実行委員会及び鹿角市教育委員会。
学校と行政が上手く連携して、事業
の推進に取り組んでいます。

○ワークショップで出された意見

【学習支援】 1班		
項目	協力できそうなこと	できない理由
校外学習	・ 一緒にリンゴとり ・ 大型車の運転 (送迎時) ・ 農作業 (田植え・稲刈り) ・ リンゴジャムづくり	・ バスの確保、事故などの責任問題 ・ 知識がない
授業補助	・ 漢字 ・ 算数 (見直し) ・ 社会科で消防団の話 ・ 調理補助 ・ 郷土料理のレシピ作り ・ 算数 ・ 算数の丸つけ ・ 習字	・ やったことがない ・ 調理補助 ・ 指導するだけの能力がない
スポーツ補助	・ クロカンの指導 ・ 部活動の手伝い (野球の球拾い、グラウン ド整備、草刈) ・ 野球のノック ・ バレーボール指導 ・ 水泳指導	・ 道具がない ・ 技術がない

【教員補助】 2班		
項目	協力できそうなこと	できない理由
ホームページ作成	・ デジカメ、ビデオ撮影 ・ 構成を考える ・ アイデア提供 ・ カットを撮る	・ デジカメを操作できない ・ パソコン不得意 ・ ホームページの更新ができない
簡単な事務処理	・ 学年ごとの集金の計算	・ 事がない
校内掲示	・ 貼り替えの手伝い ・ 町内会行事を知らせる ・ 絵を描く ・ 紙の複製を調べる ・ よい時を紹介する	・ 平日は仕事で無理 ・ 時間が取れない
学習の補助	・ 他校との交流の同行 ・ 体育授業のアシスタント ・ 本の整理 ・ アップル活動の手伝い ・ 学習用具の下調べ	・ 休みが取れない ・ 子どもにけがをさせるのが心配 (経験のある方をお願い)

【環境整備】 4班		
学地整備努力、技術を要する作業 (剪定・小修繕など)、農園、花壇などへすべて一緒に		
項目	協力できそうなこと	できない理由
春	・ グラウンドの草刈 ・ 校外清掃 ・ 校内清掃 ・ 畑の手入れ、耕起	・ やったことがない ・ 畑の知識がない
夏	・ 花壇 (花植え) ・ 花壇の草取り ・ 道具のメンテナンス ・ 池掃除 ・ 校内清掃	・ 材料費がない、やったことがない ・ 1人じゃ無理 ・ 今まで機会がなかった。清掃場所と役割を 要打合
秋	・ 校内清掃	・ 今までやったことがない
冬	・ 冬囲い ・ 雪かき ・ 校内清掃	・ やり方が分からない、やったことがない ・ 広すぎて用具がない、もし難なら忙しい

ひらもと

平元小学校 学校だより 第17号 平成21年10月 発行 編集 ひらもと

本校教員、保護者、地域住民、学校支援地域本部事業で活動している市教委の委員
さんらが企画し、かつの21プランの田中さん、門下さんに協力いただきながら学校支援ボ
ランティアについての理解と協力を進めるワークショップが開かれました。PTAやスポ少の役員
の方々、さらに地域の諸団体 (自治会、コミュニティ、子供会、老人会、婦人会) から参加
を募り、総勢40名がテーブルの横並びに向かい、黒板を囲みながらこれからの学校支援に
ついて、いろいろな提案・意見を出し合ってくださいました。その模様については、内容がまと
まり次第でお知らせしたいと思います。

交流を深める自己紹介から和やかに始まり、ファシリテーター、21プランのアドバイザーの
方たちの支援によって、4つのグループで積極
的な話し合いが進められました。発表者にあた
った、PTA会長の児玉さきさん、副会長小松
千穂子さん、文化教育部長の木村友美さん、
スポ少副会長の池澤孝生さんのまとめが素晴
らしく、話し合った充実感をしっかりと伝える
ことができました。

お忙しい時期、しかも寒い時間の会議へ
の参加に、心から感謝申し上げます。

鹿角市児童生徒科発表会

発表者 (左) 平元小学校 学校支援地域本部事業
発表者 (右) 平元小学校 学校支援地域本部事業

発表者 (左) 平元小学校 学校支援地域本部事業
発表者 (右) 平元小学校 学校支援地域本部事業

発表者 (左) 平元小学校 学校支援地域本部事業
発表者 (右) 平元小学校 学校支援地域本部事業

ワークショップの様子を伝える学校だより



話し合ったことを発表する参加者

老壮大学との連携 ふるさと学習

～縄ないからしめ縄づくりまで～



3年目の集大成、自慢のしめ縄

小坂小学校支援地域本部

小坂町立小坂小学校



◇活動の紹介

○ねらい

地域に伝統的に受け継がれている縄ないやしめ縄の作り方を知る。
地域のお年寄りの方々と一緒にわら細工をすることによって、地域の人とのふれあいを深める。

○日時

平成21年11月27日（金）
10：15～12：00

○場所：小坂小学校 体育館

○対象：4年生～6年生

○役割分担

事前の交渉

- ・老壮大学との連絡（町教委が担当）
- ・学校の窓口（教頭・学校支援コーディネーター）
- ・老壮大学の窓口（大学長）
- ・材料の準備（老人クラブ）

当日

- ・技能指導（老壮大学）
- ・児童と高齢者のつなぎ役（学校支援コーディネーター）
- ・児童の支援、態度指導（教職員）

事後

- ・お礼の手紙などによる交流（教職員）

○当日の流れ

1) 開会式

- ・みんなで歌おう「ふるさと」
- ・校長先生のお話
- ・老壮大学学長あいさつ
- ・学習のねらいと手順の説明

2) 実習

- ・学年ごと、グループごと
4・5年生…縄ない
6年生…しめ縄づくり

3) 後片付け

4) 閉会式

- ・感想発表

5) ふれあい給食会



◇活動を行って

○参加者の感想

（子どもたち）

- ・最初は難しかったけれど徐々に慣れてきて、縄が長くなった時にはうれしかった。
- ・去年のことを忘れていたけれど、おばあさんたちのおかげで思い出せた。来年はしめ縄づくりをがんばりたい。
- ・小学校での最後のふれあい学習になり、よい思い出になった。次の6年生にも教えてあげてほしい。

（老壮大学の学生）

- ・一年に一度のこの日を楽しみにしている。子どもたちと話す元気になる。
- ・この日のために材料を用意するのが自分の役目。何日かに分けてわらを叩き、準備をする。子どもたちの顔を見ると来年も準備してあげたいと思う。長生きしないとな。
- ・しめ縄づくりを教えらる学生は少なく、しかも高齢になってきている。みんなが教えられるように学習会を開いて学んでいきたい。

（コーディネーター）

- ・子どもたちがお年寄りとスムーズに会話できるように支援した。みんなとても楽しそうな顔をしていて、このような学習が続いていることはよいことだと思う。

（教諭）

- ・子どもたちには「6年生になったらしめ縄を作るんだ」という目標がある。20年近く続いている学習なので、老壮大学と連携して今後も継続していきたい。

○成果と課題

- ・3年間行うことで、お年寄りと触れあうことにも慣れ、ふるさとを大切にする気持ちが育っている。3年目には「しめ縄づくり」という目標もあり、楽しんで活動している。
- ・お年寄りとコミュニケーションをとれるようになり、進んで話しかけられるようになってきた。

☆参加していただく方の把握（人数、氏名）と担当される班の決定、名札の作成等がスムーズに進むように、老壮大学の担当者と共に連携を深めていかなければならない。

ふるさと学習会の様子



約100人の児童に対し、老壮大学の学生は約70人。まさに手取り足取り教わる子どもたち。

ふれあい給食の様子



今日のことや昔のことなど、いろいろなことを話します。世代を超えた情報交換は元気の源です。



お互いに名札をつけているので、名前呼び合います。ふれあい給食の会場まで、それぞれお世話になった方を御案内します。途中の会話も大事なコミュニケーションの機会です。



小坂小学校では、「ものづくり」の学習においても地域人材を生かしたり、高校生と一緒に活動したりするプログラムを組み入れています。

学校便り 樹海 No.9

地域の中で育まれ、健やかに育つ小坂っ子

今年も残すところ、あと20日余りとなりました。11月中旬までは新型コロナウイルスの流行で、行事の中止や授業の打ち切りなどもあり、子どもたちも毎日常に過ぎない様子でしたが、現在はほとんどの子どもが毎日元気な様子です。11月27日は老壮大学の皆様を講師に迎えて「ふるさと学習会」を行い、4・5年生は縄跳び、6年生はしめ縄作りを学びました。物を大切に扱う気持ちや先人の知恵、日本の伝統に触れながら、交流を深めることができました。その後で行われた「ふれあい給食」でも一緒に給食を食しながら、楽しいひとときを過ごすことができました。

お金があれば欲しい物が手に入る時代ですが、未来を支える子どもたちに「もったいない」「物を大切にしよう」という気持ちを育てていくことは、手間暇のかかることですが、とても大切なことです。「じょうずだねえ」と誉められた時の子どもたちの表情は、とても嬉しそうでした。2学期最後まで、子どもたちが元気に登校できるように協力をお願いします。

行事予定(12/6~2/5)	
9日(水) 学年マナー教室(4年)	24日(木) 図書貸出(高)
10日(木) 学年マナー教室(6年)	25日(金) 2学期終業式・給食最終日
委員会活動(高)	指導部会
11日(金) 学年マナー教室(5年)	書道・書画・ブック作り作り日
16日(水) 金曜校時・ものづくり(1年)	12/26~1/13
17日(木) C.R.T. (国・理) クラブ活動	1月
18日(金) C.R.T. (国・理) 旗っ子集会	5日(火) 町見直し発表
水曜校時・おひな会(高学年)	書き初め書き初め
21日(月) 図書貸出(低) 企画委員会	職員会議
22日(火) 図書貸出(中)	14日(木) 3学期始業式・給食最終日
外国語活動校内研修会	19日(火) 職員会議
23日(水) 天皇誕生日	20日(水) 本曜校時・委員会活動
	21日(木) 水曜校時
	26日(火) スキー教室(中)
	27日(水) スキー教室(高)
	28日(木) スキー教室(高)
	30日(土) 鹿角小学校スキー大会(高)
	2日(火) スキー教室(高)
	4日(木) スキー教室(中)

地域の方とのふれあいを紹介する学校報

夏休み学習会

～コミュニティ・スクール

地域委員会の取り組みから～



地域委員会は、地域住民による学校応援団であり、学校と一緒に、なって諸活動の企画や運営をしたり、自主企画事業の実施や環境支援、広報活動などを通して子どもたちと学校を支援しています。

城西コミュニティ・スクール地域委員会

大館市立城西小学校



◇活動の紹介

○実施のあらまし

学習ボランティアが主となって企画・準備・実施している事業で、長期休業中に学習する習慣を身につけるための方策の一つとして昨年度より行われている。

児童は学習ボランティアに見届けられながら、自分の計画にそった学習を進めることができ、夏休みの課題や自主学習、ドリルなどの自学自習に取り組んでいる。学習ボランティアや教員は求めに応じて教えたり、丸つけをしたりする。

○活動日時

平成21年7月23日（木）～30日（木）

夏季休業中の6日間

午後1時30分～午後3時30分

※部活動がある児童も参加できるようにしてほしい、という保護者の声を受け、今回は午後に行った。

○対象

3年生～6年生の希望者

○活動場所

城西小学校メディアセンター



○実施にあたって

(1) ボランティアの募集

- ・今回は高校生や中学生も加わり、約20名のボランティアと教員18名が協力。それぞれ可能な時間に児童を支援した。
- ・6日間でのべ188名の協力があった。

(2) 参加児童の募集・登録

- ・今回は75名が登録。
- ・6日間でのべ401名の児童が参加した。

(3) 受付の設置

- ・安全確保と意欲付けのために、地域委員による受付を設けた。

(4) ルールの徹底

- ①あいさつ
- ②学習内容を決めてくる
- ③分からないままにしないで聞く
- ④何をがんばったのか報告する
- ⑤欠席するときは届ける

(5) 「始まりの会」や「終わりの会」の設定

- ・共通理解と意識高揚のために「始まりの会」を初日に行い、参加児童とボランティア、教員で趣旨やルールを確認した。また、最終日には「終わりの会」を設け、がんばりを認め合った。



受付で参加時刻や帰宅時刻、交通手段を確認。決めてきた学習内容や、帰りにはがんばったことも報告。

地域の人たちと会話することで、普段とは異なる人から声をかけられたり、ほめられたりする機会が増えた。

◇この活動を行って

○成果

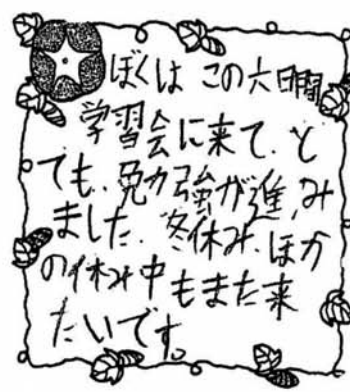
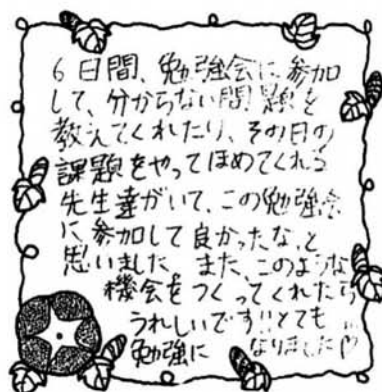
- ・ボランティアのおかげで、子どもたちに自学自習する場を提供できた。多くの人に関わっていただくことにより、子どもたちの学習意欲が向上した。
- ・昨年度の反省をふまえて、学校とボランティアがうまく協力して実施できた。
- ・協力してくれるボランティアが多く、個々の児童のニーズに応えることができた。
- ・保護者の要望で参加範囲の拡大や実施時間を変更したことにより、参加児童が増えた。

○反省を生かして

- ・暑い時期の開催なので、これ以上の参加希望がある場合は場所の検討が必要である。
- ・高校生や大学生のボランティアを拡充していきたい。
- ・児童の名前が分かりやすい名札や座席札の準備し、ボランティアがスムーズに声かけできるようにしたい。

●活動のようす●

○子どもたちの感想



高校生ボランティアに教わる児童

○学習ボランティアの感想

子どもたちは素直で、一生懸命がんばっていた。認めてもらえる場があるのはよいことだ。

一声かけるとさらにがんばっていた。様々な目があることは子どもたちの意欲向上にもつながる。

教えるのは初めてだったけれど、「ありがとう」と言われて嬉しかった。
(高校生ボランティア)

いろいろな学年がランダムに席に着き、同一会場で学習するのはよい効果があると思う。

地域委員やボランティア、母親たちが大勢いることは、子どもたちにとってとてもよいことだ。

わからない子どもにどこまでつっこんで教えてよいものか、難しい。



「始まりの会」で学習ボランティアとルールを確認



一日に60～70人の児童が参加

地域の教育力を 学習活動に

～学習支援ボランティアの活用～



成章地区学校支援地域本部

大館市立成章小・中学校



〈成章学区支援本部〉

大館市成章学区は、大館市郊外にある1小学校・1中学校の小さな地区である。地域の学校教育に対する関心も高く協力も惜しまない。また、学区には秋田県北部老人福祉総合エリアがあり、児童生徒の体験活動等にも活用させていただいている。

小・中学校それぞれで地域のことをよく知っているコーディネーターをお願いし、学習活動の支援を中心に様々な活動を行ってきた。

学区の全戸に募集のちらし（次頁資料）を配布し学校支援ボランティアの募集を行った。公募しても必要とされる人材のすべてが集まらないので、地域事情に詳しいコーディネーターが直接お願いして集めた。

〈授業までのコーディネート〉

授業等への活用は担任（担当）から、教頭や地域コーディネーターをお願いし、指導してほしい内容を確認した上で、コーディネーターが指導者と日程調整を図って進めている。今まで担任が交渉していた部分をコーディネーターが進めてくれるため、大変助かっている。

〈活動の実際：成章中学校〉

◇書写の指導

国語の書写指導は地元の書道の専門家をお願いしている。9月中旬、学校祭の展示作品を書く時に集中的に来ていただき一人一人にきめ細かい指導をしていただいている。基礎基本が大事なので、1年生に5時間程指導していただいている。生徒たちも満足のいく作品を書こうと熱心に取り組み、大きな成果をあげている。

◇ユニカールの指導

昨年度は2・3年の選択の体育の時間に学区のユニカールグループに来ていただき、競技方法について指導していただいたり、一緒にゲームを楽しんだりした。今年度はPTA行事（なべっこ会・親子レク）に20名ほど来ていただき、8レーンを設置、楽しく親子レクを行った。競技方法や技術の指導だけではなく、生徒や保護者が学区

の人々と楽しく交流できたことにも大きな意義を感じている。

◇柔道の指導

教科の体育で全学年に2～3回来ていただいた。教科担任と技の要領の師範を行ったり、個別に指導したりして専門家の技術を授業に効果的に生かすことができた。

◇和楽器の指導

音楽の和楽器の学習で箏を扱った。学区在住の箏の先生に指導していただき、技能の向上だけではなく、箏の美しい音色を感じ取らせることができた。また、日本の伝統楽器のよさを味わうことにもつながった。

〈活動の実際：成章小学校〉

◇昔の遊びの指導

1・2年生の生活科でお手玉やおはじき、けん玉などの昔の遊びの指導をしていただいた。児童にとって初体験の遊びも多く楽しく学習を行うことができた。

◇社会科見学引率補助

4年生の社会科で市内の施設を見学する際に児童のお母さん方を引率補助としてお願いした。安全対策という面でも大変効果があった。

〈成果〉

地域人材を学習活動に活用する意義は、専門的な知識や技能を生かした指導を受けられること、教師と異なる視点による発想や工夫が期待できることなどがあげられる。そのことにより児童生徒の学習意欲や関心が大変高まり、学習効果につながった。

また、学習活動を通じた地域の人々との交流は、社会性やコミュニケーション能力など生きる力の育成にもつながると考えている。さらには、学校を核とした地域社会の連帯感が醸成されることも期待できる。今後も地域の教育力を活用したり交流を深めたりしながら、地域と連携した学校づくり・教育課程づくりを進めていきたい。

平成21年度 成章学区(成章小・成章中)学校支援地域本部事業

大募集！学校支援ボランティア

こんなことに、お手伝いいただけませんか？

学校支援地域本部事業が始まって2年目。成章小・中学校では、今年度も「学校支援ボランティア」を大募集しております。昨年度は授業や諸活動でたくさんご協力をいただき、大変お世話になりました。今年度も様々なことにお手伝いをお願いしたいと思っております。ご協力いただける方は、下記の申込書を持参していただくか、電話、FAX、メールなどでご連絡ください。

【小学校】

1 学習活動

- ① 家庭工
- ② 図工
- ③ 生活科
- ④ 体育
- ⑤ 体育
- ⑥ 社会
- ⑦ 音楽

5、6年 9月～12月
全学年 10月～12月
1、2年 11月中旬
1、2年 1月中旬～下旬
3～6年 2月3日(水)
6年 2月下旬
1～6年 9月～2月

縫縫(手縫い、ミシン)、調理の指導補助
絵画、工作の指導補助
児童に音の遊び(お手玉やおはし、銅玉等)
スキー指導(グラウンドで)
スキー教室(大綱スキー場)
外国のくらしや国の紹介
器楽演奏の指導及び指導補助

2 その他

賞状名前書き、部活指導(陸上部、ミニバスケット部)、ふるさとの歴史のお話、手品、海外生活体験のお話、社会科見学引率補助、野菜づくり、読み聞かせ、英会話

【中学校】

1 各教科の学習

- ① 国語
- ② 体育
- ③ 体育
- ④ 体育
- ⑤ 音楽
- ⑥ 音楽

書写 9月中旬
ユニカール 10月上旬
ユニカール 10/24
柔道 11月
民謡 11月上旬
和楽器 12月上旬

毛筆指導(半紙)
ユニカールの指導
ユニカールの指導と交流試合
柔道の授業のお手伝い
民謡独特の発声と簡単な曲の指導
華の権威演奏

2 その他

地域の植物の分布に詳しい方、環境整備(花壇作業、植木の剪定)学校行事のお手伝い

詳しい日時は、お申し込みをいただいた方に、後ほど連絡いたします。よろしくお願いします！



【申し込み・問い合わせ先】

大館市立成章小学校 TEL: 52-2818 FAX: 52-2812
担当: 教頭(荒澤) mail: seisyoes@eos.ocn.ne.jp
大館市立成章中学校 TEL: 52-3022 FAX: 52-3034
担当: 教頭(三浦) mail: seichu@alpha.ocn.ne.jp



コーディネーターも書写指導



専門家による書写指導



ユニカールの指導



専門家による書写指導



4年社会科見学補助



1・2年生活科「昔遊び」

地域の力を 学力向上へ

～「丸付け先生」奮闘記～



扇田小学校「楓の木委員会」

大館市立扇田小学校



本校では、パワーアップタイムという名称で毎週月曜日6校時3年生以上、金曜日5校時1・2年生が、国語や算数などの教科について回復や補充、深化により基礎的な学力の定着・向上を図る時間を設けている。この時間には、学級担任以外の先生方も支援に入り、できるだけ子どもたち一人一人に目をかけるように配慮してきたが、如何せん指導者の人数には限りがある。特に、シート学習では点検・丸付けの際に、一人の先生の前に多くの子どもたちが列をなして並び、子どもたちは待ち時間に押されて問題を解く時間が減り、先生は学習が進まない児童への十分な個別指導ができないという状況が見られた。一人一人に目をかけるために、できるだけたくさんの人に学校に足を運んでいただき、丸付けをしてもらいたい、という先生方のニーズが地域の方の支援の熱と一致した瞬間である。早速、学校支援地域本部が「丸付け先生」を発案。コーディネーターが人材の手配を行い、パワーアップ「丸付け先生」の取り組みがスタートした。

当初、「丸付け先生」の登録人数は8名で、打合せの際には次の点を確認した。

- 事前にシートの答えは教師が準備するので、不明な点はたずねる。
- 丸付けの際には子どもたちに一言話しかけてほしい。
- パワーアップ終了後は、子どもたちの様子や学習の内容について気軽に話しをする。
(コーディネーターがまとめる)

各クラスに2、3人の丸付け先生が入り、パワーアップタイムが始まった。最初は慣れなかったものの、「よくできたね」「ちょっと勘違いしたのかな」と一人一人に話しかけながら答え合わせ。時には「どうしてこう考えたの」と聞いたり、「向かいの家のお孫さんだね」と声をかけたりすることもある。「丸付け先生」はその都度、学年を交代しながら行っているので、各学年の学習の様子、教科

の内容についても知ることができた。

45分間が終わると、全精力を注いで子どもたちに向かってくれた「丸付け先生」たちは疲労困憊。それでも、子どもたちの「ありがとうございました」の声に送られ、さわやかな笑顔で毎回戻ってこられた。終わった後のお茶を飲みながらの和やかな反省会では、気付いたことなど、たくさん話題が出された。

〈丸付け先生の効果や成果〉

「丸付け先生」が登場して以来、子どもたちの学習内容に深まりが見られただけでなく、様々な効果や成果が見られるようになった。ボランティアの「丸付け先生」は「楽しい、張り合いのある時間だった。特別な行事でなく、通常の学習活動に参加できて本当にうれしく思った」という声が聞かれ、また、子どもたちとの距離も縮まり、町を歩いていても声をかけられることが増えたということであった。

パワーアップの本来の目的である基礎的な学力の定着・深化という点でも、CRT検査の結果が全国通過率+9.4ポイントを達成することができた。「丸付け先生」だけの成果とは言えないが、明らかに学力向上の一翼を担っていただいたことは確かである。

〈丸付け先生の今後〉

新学習指導要領の一部実施に伴い、教科学習の時間が増えるためパワーアップの時間は朝学習の時間に移動。当初8人だった登録者も徐々に増えてきているが、基礎学力の定着だけでなく、考えたり表現したりする学習にも、何らかの形で支援できないかについても検討している。

いずれ、これまでの取り組みを通して、子どもたちと地域の方たちの距離が縮まり、絆が深まったと思っている。大人たちにとっては生きがいに、子どもたちにとっては生涯学習の基礎が培われる、まさに「学びのコミュニティ」が誕生しつつある。先生方の異動に関係なく、永く続く「地域が学校を支える」システムづくりによって、ともに未来を創る大きな輪が広がるように歩を進めていきたいと考えている。

保護者・地域の皆様

平成21年1月吉日

大館市立扇田小学校
校長 五日市 正子

<学校支援地域本部事業>

丸つけボランティアのお願い

一陽来復の春、本地域も比内とりの市を迎え活気を呈する候、皆様におかれましてはますますご清祥のことと存じます。
日ごろより本校の教育活動に対しまして温かいご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、本校では今年度から「学校支援地域本部事業」を立ち上げ、地域の皆様の教育活動支援・環境支援などを通じ、子どもたちの教育活動の充実を図っております。お陰様で、学習・文化・スポーツの面で子どもたちはもてる力を十分に発揮しております。この度支援事業の一環として、子どもたちの基礎学力のより一層の定着と意欲の向上のために、毎週取り組んでいるパワーアップタイムの充実を図ることにいたしました。

つきましては、お忙しいところ誠に恐縮ですが、下記の内容での丸つけボランティアへのご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

記

- 1 実施曜日・時間・学年・教科
・月曜日 14:50～15:35 (6校時)
3年～6年(国・算・社・理など)
・金曜日 13:50～14:35 (5校時)
1、2年(国・算)
- 2 お願いしたい内容
○プリントの丸つけ ※解答は学校で準備します。
○励ましの声かけ(がんばったね、もう少し考えてごらん、など)
- 3 その他
○都合のつく時間においでください。
○個人情報の保護にご配慮願います

◆ご協力いただける方は下記にご連絡ください

【問い合わせ・連絡先】

扇田小学校支援地域本部
コーディネーター 和田 克郎
電話 55-0043
FAX 55-2140

丸つけボランティア募集ちらし



パワーアップタイム



丸つけ先生



丸つけ先生



丸つけ先生



丸つけ先生



丸つけ先生

学校行事から 地域ぐるみのイベントへ

～城南スポーツフェスティバル～



城南小学校支援地域本部 大館市立城南小学校



〈城南スポーツフェスティバルの開催〉

学校支援地域本部事業の春の一大イベントとして5月17日、樹海ドームを会場に「城南スポーツフェスティバル」が開催された。運動会の樹海ドーム開催は、

- ①校舎の耐震度調査の結果が懸念されたこと
- ②グラウンドコンディションが悪く、毎年、実施について心配される状況にあったこと
- ③たくさんの来場者の観覧スペースが十分確保できないこと
- ④駐車場がないこと

等を勘案し、本年度は樹海ドームでの開催になった。さらに、本事業が本格実施されることに鑑み、せっかくなら地域の皆様にもご来場いただいて、地域ぐるみのスポーツイベントができないものかと検討した結果、午前中は本校の運動会、午後は保護者や地域の皆様にも参加いただいて、子ども達と一緒に楽しくスポーツをしていただくということになった。

午後のオープニングは、本校の定番とも言える大文字踊り。保護者や地域の方々が例年以上に踊りの輪に加わり、子ども達と一緒に踊ってくださったことは何よりも嬉しかった。また、菅原恵子インストラクターによるヒップホップダンスが始まると、場内の興奮は最高潮、ドーム内の雰囲気は一気にヒートアップした。

午後のハイライトは何といってもエンジョイスports。会場内に様々なスポーツコーナーを設けたり、就学前の子どもさんや1・2年生を対象とする「キッズコーナー」を設置したりして、自分の体力や興味に応じて、地域みんなでスポーツを十二分に楽しむことができた。

【エンジョイスportsのプログラム】

- 大文字踊り
- ヒップホップダンス
- 様々なスポーツに挑戦
 - ・ニュースports・PA
- キッズコーナー
 - ・フラフープ・なわとび・綱引き等

○その他

- ・体力測定・ピッチングスピード測定等

〈フェスティバルのプログラム企画〉

PTAや職員、地域コーディネーター、樹海ドーム職員が何度も検討を重ねてプログラムができた。地域への呼びかけは全戸配布の学校報で行い、外部折衝は地域コーディネーターも行った。

〈学校行事から地域ぐるみのイベントへ〉

学校は保護者や地域住民の支援や協力を受けるだけではない。地域の中の学校として、地域に積極的に情報発信し、関わり、よりよい信頼関係を築き元気を与える存在でなければならないと考えている。今まで学校行事として実施していた運動会を午後のプログラムを工夫することにより、地域のイベントとして実施したのは、実はそういったねらいもあった。

〈多くの支援ボランティアに支えられて〉

このイベントの実施に当たって忘れられないのが延べ150名を超える多くの支援ボランティア（保護者+地域）である。予行時の引率、会場設営・準備、駐車場誘導、会場係、エンジョイスportsコーナー担当など各係・担当業務をPTA役員と一緒に頑張っていた。また、

〈成果〉

当日は、児童、来賓、保護者、祖父母、地域の方々など3000名もの人達が集まった。児童や孫のいない地域の方々もお出でいただいた。それをきっかけとして、学習発表会にも多数来校いただいた。地域を巻き込んだイベントを通して、学校がより身近なものになり、地域とのかかわりも深まっていくきっかけになったことは間違いない。地域の中の学校としての役割を少しは果たせたのではないかと考えている。

開かれた学校づくりということをいくら学校が地域に掲げ呼びかけても、具体的なアクションがないと実現はできないということを実感できた。

今後も学校と家庭・地域の双方向の連携協力を築き、「地域の元気の源」となる学校を目指していきたい。

「いつでも だれでも できることを 楽しく」がモットーです 城南小学校支援地域本部事業

“チーム城南”にあなたの力を！

本年度も引き続き、
学校支援ボランティア“チーム城南”募集中です



去る2月の本紙(第201号、平成21年2月1日付)で、学校支援地域本部事業に関わる学校支援ボランティア募集のお願いをしました。本紙実施となる本年度のスタートにあたって、再度、地域の皆様方に学校支援ボランティアのお願いをいたしたく思います。本校では、このボランティアを学校・保護者・地域の三者がまさに一つになって、城南っ子の育成を図るという一体感をその意味に込め、「チーム城南」と呼ぶことにしています。すでに本校では、前号に掲載した「通年のあいさつ運動」推進のために、全ての保護者の皆さんに「あいさつボランティア」として登録していただくことにしています。お仕事やご家庭の都合もありたいと思えます。上にも掲げましたように、「いつでも、誰でも、できることを楽しく」ということをモットーに、ご協力いただければ幸甚に存じます。城南っ子のために、よろしくお申し込み申し上げます。以下、その内容や手続き等について、再掲させていただきます。

- 留意事項**
- ①チーム城南への参加支援は、資格や免許は必要ありません。どなたでも参加できます。(※但し、無償です。)
 - ②参加を希望される場合は、下の「参加申込書」に所定事項をご記入の上、下記のいずれかの方法で学校までご提出ください。(お申し込みは随時、受付いたします。)
 - ③参加申込をされた方は、「城南小学校人材バンク」に登録させていただきます。
 - ④ご不明な点等に関するお問い合わせ先も下記にお願いいたします。

《お申込先》

大館市立城南小学校 (担当：教頭、教務主任)
☎42-3025 (FAX) 42-3295
E-mail: johannan@eos.ocn.ne.jp

《提出方法》

- ★参加申込書を切り取り、直接、学校へ持参。(1階事務室、2階職員室)
 - ★FAXか、メールで送付。
 - ★近所の本校児童に託す。
- ※本校保護者の皆さんは、お子さんを通して、学級担任にお届けください

★学習支援活動

…教科や総合的な学習の時間、校外学習の際等でサポートしていただくものです。

- ①「赤ペン先生」…漢字や計算のプリントの丸付け等
- ②音楽の指導…合唱指導、楽器の演奏指導
- ③体育の指導…水泳・器械体操・スキー等の指導
- ④社会の指導…歴史、農作物栽培等に関するお話、企業(会社)勤務のお話、各種見学の補助
- ⑤図工の指導…絵や工作
- ⑥家庭の指導…裁縫、ミシン、調理実習の補助
- ⑦理科…実験に関する準備・演説・後片付け
- ⑧国語…本の読み聞かせ等
- ⑨道徳…人生体験やボランティアの経験等をお話して下さる方
- ⑩総合的な学習…昔話や方言、福祉体験、国際理解に関わること(外国語、料理、他)、大館の行事・食・自然・動植物
- ⑪生活科…昔の遊び、作物の栽培指導、農業体験をさせていただける方、校外学習の引率補助
- ⑫その他…夏休み等にスペシャル講座を開催していただける方…動植物の観察、読書、星座観察等



城南スポーツ・フェスティバル 運絡1

各係、担当業務にご協力ください

本紙第13号(4/23付)で、運絡フェスティバルに係る事前・当日の係等について参加を募ったところ、90名を超える皆さんにご協力いただきました。ありがとうございます。ただ、当初、各セクションで仕事とされる委員数は違っていたため、下記のように若干人員(専門部)の皆さんにお断りすることになりました。(関係の方には7日付で依頼文書を送付済みです。)ご迷惑をおかけしますが、よろしくお断りいたします。※これまでも協力いただける方は、学校(担当：小林教頭)までお知らせください。

- 1 予行時(14日)の引率ボランティア…現在、希望者が20名。
【業務内容】…児童の安全確保のため、徒歩で往復する経路の危険箇所等で安全指導をしていただきます。(場合によっては、お子さんと一緒に歩かれることもあります。)片道だけでも結構です。
- 1～3年生は往復、バスで移動します。当該学年の保護者の方で、希望された方は、危険箇所での指導や会場(ドーム)内でのお断り等としてご協力いただければと思います。
【終日、会場においてになる方の昼食は断り入りますが、各自でご用意ください。(児童は給食)】
【主な日程】8:10 集合、打ち合わせ 8:30 集合で児童と一緒に移動開始→9:30 会場到着→10:00→予行→14:30 会場出発→15:40 学校帰路
- 1～3年生はバス移動でバス通送となるため、学年によって時間が異なります。(児童地も学校ではなく、文化会館前となります。)
- 2 前日(16日)の会場設営・準備作業…希望者12名+厚生体育部・文化部
【業務内容】…前日の夕方、物品を搬入し、会場の準備作業を行います。
【主な日程】17:00 ドーム集合(マシントラックなど作業内容の確認)→17:05 作業開始(・物品搬入・本部設営・くら組み立て・ステージセット・ライティングの貼り付け、外)→19:00 作業終了(※作業が終わった後、解散となります。)
- 3 駐車係(17日朝)…希望者5名+おやじの会等
【業務内容】…当日の朝、来場する車を駐車誘導します。2交代制(1期 7:30～8:15、2期 8:15～9:00)正面のP1駐車場



大館市立城南小学校
大館市立城南小学校
電話(0186)42-3025

たくさんのご来場、ありがとうございました 城南スポーツ・フェスティバル、大盛況！



大館市立城南小学校
大館市立城南小学校
電話(0186)42-3025





図書館を生徒が集う場に 利用しやすい場に変えたい

～生徒・保護者・地域住民の力で
取り組む図書館リニューアル～

東地区学校支援地域本部

大館市立東中学校



◇活動の紹介

○きっかけ

今年度から「学校支援地域本部事業」の取り組みの一つとして図書館改造に取り組んでいる。きっかけは、この事業により学校に足を運ぶ機会が増えた保護者の声であり、「図書館を生徒が集う場、利用しやすい場に変えたい！」という願いであった。

図書館のリニューアルは生徒の活躍の場を広げたり、地域住民の交流の輪を広げたりしながら着実に進められている。

○スケジュール

(1) 7月10日(金)

学習会の開催

テーマ：「現代子どもの読書事情」
講師：児童文学評論家 赤木かん子 氏

図書館改造で著名な講師を招き、保護者や地域住民、教職員が新しい学校図書館の在り方を学習した。参加者40名。

(2) 8月4日(火)～7日(金)

本の整理作業と大掃除

「今週はAM9:00図書館集合！」を合い言葉に、図書委員や文芸自然観察部員の生徒たち、保護者や地域住民など総勢45名が参加して本棚の配置換えや書籍の移動、大掃除などを行った。

(3) 9月8日(火)

学校視察(仙台市立加茂中学校)

「百聞は一見に如かず」と、学習会で講師を務めた赤木氏が手がけてリニューアルされた学校図書館を視察。参加者5名。



参加者の声

ゆったりとした明るいスペース。ジャンルごとに整理されている本。ソファがあったり、じゅうたんが敷かれていたり。こんな空間が学校にあって、ここの生徒が羨ましい。この図書館なら本を探すのも読むのも楽しいと思う。

(4) 10月19日(月)～23日(金)

本棚のリフレッシュ

地域の木工さんに教わりながら、保護者や地域住民が最近のA4サイズの本も収納できるように棚の間隔を広げたり、本が映えるように白いペンキを塗ったりした。協力者のべ35名。

学校からの募集案内を持って来た町内会長に声をかけられ、来てみた。学校に足を運ぶのは娘が世話になっていたとき以来だ。自分にできることなら恩返しを兼ねて協力していきたい。



協力者の声

(5) 11月24日(火)～25日(水)

愛情込めてテーブルクロスの手作り

図書館を優しい雰囲気に変えるためにテーブルクロスやタペストリーなどの縫製作業を行った。協力者のべ12名。

◇活動を行って

○成果と課題

- ・図書館が劇的に変わった。生徒が図書館に興味をもち、関心を示すようになった。また、図書ボランティアのおかげで図書館がオープンになり、利用する生徒が増えた。
- ・ボランティアの募集をきっかけに、地域住民が学校の取り組みに関心を持ってくださるようになり、協力者が徐々に増えている。
- ・一緒に活動したり、自分たちのためにがんばってくださっている姿を見たりすることによって、生徒と地域の方との新たな交流が生まれている。

☆利用率を高めるためには、図書館に人がいることが必要である。

○今後の予定

- ①より利用しやすい図書館を目指してリニューアルを進める。
- ②書籍をデータベース化する。
- ③ディスプレイや修理方法を学ぶ学習会を開催する。

○現在の図書館



平成 21 年 12 月



11月24日(火)

先生たちや図書館にいる方たちと本について話題にしていきたいです。図書館に誰かにてくださると来やすくていいです。

こんなふう
にリニューアル
してくださっ
たお母さん
たちや地域
の方たちに
感謝の気も
ちでいっ
ぱいです。

地域の力で環境整備

～防鳥ネットの設置～

大阿仁小学校支援地域本部

北秋田市立大阿仁小学校



〈防鳥ネット設置〉

大阿仁小学校には、毎年たくさんのツバメが飛来する。春をつげるかわいらしい使者なのだが、ベランダには糞害や巣作りのための残骸が散らばり、時には餌となった昆虫の死骸が残されて使用できる状況ではなかった。また、それらから発する悪臭が漂い学習スペースのためのベランダが汚れ不衛生な状態となっていた。この状態が長年にわたって繰り返されてきているため、汚れが落ちにくく子どもたちだけでは手に負えず、学習スペースとして機能できない状況になっていた。そこで、学校支援地域本部事業を活用して対処できないものかと、地域コーディネーターに相談したところ、作業ボランティアとして3名の大工さんが来校し、さっそく足場を組んで、高所に作られた鳥の巣の除去と、今後ベランダに野鳥など小動物が入らないように防鳥ネットを設置してくれた。(平成20年12月)

〈南側ベランダの清掃作業〉

防鳥ネット設置後、本校の地域の婦人会の皆さん13名が来校し、鳥の巣や糞を除去してくれた。長年汚れていたベランダやテーブルは、洗剤を使用し雑巾やデッキブラシで磨いたところ、見違えるほど綺麗になった。(平成21年1月)

〈北側ベランダの清掃作業〉

昨年に引き続き、今年は北側のベランダの清掃活動を松森地区老人クラブにお願いした。松森地区老人クラブの皆さん23名が来校し、苔の除去、腐敗した落ち葉などの清掃作業を実施してくれた。(平成21年10月)

〈子どもたちとの交流〉

ベランダの清掃後、本校の礼法室(畳の部屋)に入ってもらい、お礼に子どもたちから朗読のプレゼントをした。この日のために練習したのではなく、普段の学習の既習内容の朗読をしたもの

であったが、大変喜んでいただいた。それをきっかけとして2日後の学習発表会にも来校してくれた。来校した3分の1の方が大阿仁小学校に初めて入ったということで、今後また機会があれば、是非来校したいと話していた。

〈支援のための体制づくり〉

今年度は本校の地域本部支援教育協議会に老人クラブ会長、婦人会代表、地区の自治会長にも加入いただいている。そのことがあって、学校、コーディネーター、ボランティア三者の関係が築かれ、環境整備に関わるボランティア確保が容易になっている。このことから、今年度の環境整備作業がスムーズに実施出来るようになった。

〈成果〉

本校は、これまでも保護者の皆さんや地域の方々に、様々な形で協力や支援をいただきながら開かれた学校づくりを進めてきた。特に本校のようなへき地校で地域との結び付きが強い学校にとって、そのことはとても重要であると思っている。しかし、いくら開かれた学校といっても、来校のきっかけや機会、子どもたちとの活動や交流、積極的な情報発信、行事等への招待など、具体的なアクションがないと、そう簡単には開かれた学校づくりは実現されるものではない。そういった意味でこの支援本部事業を通して、地域との絆がさらに深まり、よりよい関係を築き、開かれた学校づくりに向けて一歩前進することができたように思う。

様々な機会に地域の方々と話をするにつれ、実はもっと地域の方々は機会があれば「母校に行ってみたい」「何らかの形で関わりたい」と強く思っていることを感じとれた。

今後も地域と連携した開かれた学校づくりを目指すと共に、地域を支え、地域に元気を与える学校づくりを目指して取り組んでいきたい。

メンバーカードの活動について認識を深めに研修云

学校支援ボランティアを募集しています

学校地域本部事業とは、学校が必要とする活動について、地域の方々がボランティアとして支える事業です。
学校が必要としている活動にご協力いただける方については、学校支援人材バンクに登録して下さいをお願いします。

連絡・問い合わせは…阿仁地域学校支援実行委員会事務局 阿仁公民館 TEL 82-2220です。

◆学校支援ボランティアの活動事例◆

- 学習の支援** 調理実習の補助や校外学習の引率など
- 安全確保** 登下校時における安全指導、校内の見回りなど
- 環境整備** 花壇の整備、図書室の整理や貸出など
- 部活動の支援** 運動部、文化活動の指導や補助
- 学校行事の支援** 運動会や文化祭などの準備など

学校支援地域本部事業

地域に広げよう! 学校応援団

学校支援ボランティアの活動紹介



大阿仁小学校には、毎年たくさんのツバメが飛来します。春を告げるかわいらしい使者なのですが、糞害や臭いが気になることがあります。そこで学校支援地域本部事業を活用して何とかできないものかと地域コーディネーターに相談したところ12月24日、作業ボランティアとして3名の大工さんたちが来校し、早速定場を組んで鳥の糞の除去や鳥よけのネットを設置してくれました。

鳥よけネットの取り付けをする大工さんたち

比立内幸屋地区の婦人会の方が大阿仁小学校で1月29日、昨年地域の皆さんがボランティアで鳥よけのネットの取り付けや糞の除去してくれたベランダの床やテーブルの裏や泥をデッキブラシや雑巾で洗い流しきれいに清掃してくれました。すっかりきれいになったベランダに高橋校長は「ここで授業や給食の場としても利用できるようになった」と喜んでいました。



ベランダの清掃をする幸屋地区婦人会の皆さん

みんなで支える学校 みんなで育てる子ども

学校支援地域本部事業がはじまっています!

「学校支援地域本部」は、学校の教育活動を支援するため、地域住民等による学校支援ボランティア（スクールサポーター）の参加をコーディネートするもので、地域に作られた学校応援団といえます。

大阿仁小学校では、これまでも保護者の皆さんや地域の方々に、様々な形でご協力・ご支援をいただきながら開かれた学校づくりを進めてきました。

学校支援地域本部は、その取り組みの延長線上にあるといえます。すなわち、保護者の皆さんや地域の方々が学校を支援する取り組みをさらに発展させて組織的なものとし、学校教育の充実をもとより、地域教育力の向上や生涯学習社会の実現も図ろうとするものです。

大阿仁小学校のスクールサポーターのモットーは、「できるひとが できるときに できることを 無理なく 楽しく」です。

どうぞこれからも皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。



防鳥ネット設置作業



ベランダの清掃



作業後礼法室で一服

学校林活動

～地域の象徴としての活動～

鷹巣南小学校支援地域本部

北秋田市立鷹巣南小学校



〈学校林活動のねらい〉

第一は、学校林活動の継続である。平成21年度から旧竜森小学校が本校と統合された。閉校となった竜森小学校では昭和29年から学校林活動が継続されてきたが、統合後の本校でも円滑に発展的に継続することが求められていた。

第二のねらいは、統合を契機として「ふるさと学習」を発展させ、学習林や森林を活用した様々な学習を進めていくことである。学校林活動を通して、ふるさとの自然や風土を愛することや郷土の歴史や伝統、文化を正しく受け継ぐことができるようにしたい。

第三のねらいは、学校と地域、地域と地域を結び付け融合を図る象徴として学校林活動を機能させることである。

〈地域の象徴としての活動〉

学校林活動は、竜森小学校時代においては過疎化が進む地域に元気を与える一手段としての役割もあった。右記は昨年度の竜森小における活動例であるが、統合後も活動内容は基本的に同じである。自分たちの手で杉苗を植え、その生長を1年を通して観察したり、順調な生育のための環境整備をしたりする。春、新しい学校林に杉苗を植樹するため、多くの両地域の方々が地ならしや植林の手伝いをしてくれた。秋の下刈りの際にも、たくさんの方々に力を貸していただいた。四季折々の森林に学ぶ子どもたちの姿を通して地域が結び合わせられ一つになってきている。地域を活用した学校林活動という学習が、地域に共鳴を起し振幅を広げている証である。

〈支援本部事業の活用〉

地域の象徴としての育林活動を今後も継続していくためには、地域の理解、協力なくしてはできない。この事業の趣旨を十分に生かし、学校と地域双方向の連携・協力を築きあげながら、地域に愛される地域の中心としての学校を目指していきたいと考えている。

〈活動の実際〉

◇春の育林活動



保護者協力を得て、50本の杉苗を植樹。苗を植えるための穴を掘ったり、まわりの草を刈りとったりするなどした。

◇夏の育林活動



旧竜森小学校全校児童が、次年度に統合する鷹巣南小児童22名を迎え、合同で活動した。まわりの草を刈りとったり、支え直したりした。

◇秋の育林活動兼なべっこ遠足



生長の様子を観察し記録した。その後、なべっこ遠足とし、秋田名物きりたんぽを協力して作った。間伐の重要性も学んだ。

◇冬の育林教室



1年間のまとめと次年度への環境づくりのため、かんじきを履いて学習林に出かけた。冷たい雪の下でも力強く生きている苗からたくさんのかんじきを学んだ。

〈成果〉

学校の閉校、統合という地域にとって大きなできごとの中で、学校林活動が二つの地域の融和、融合の象徴として捉えられている。少子高齢化、過疎化に悩む地域にとって森を育てることの意義は大きいのではないかと。森を育てることは子どもを育てることであり、地域を育てることでもある。今後も学校林活動を深化発展させながら、得られた成果を発信していきたいと願っている。

●活動のようす●



苗植えのための穴掘り



育林の学習



苗植えのための耕地



枝打ち

〈国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール〉



「特選」
農林水産大臣賞

1年 三上美里



国土緑化推進機構
理事長賞
3年 武田沙輝

〈国土緑化運動・育樹運動に応募した標語〉

三上美里 (1年)	守ろう 緑を みんなでいっぱい木を植えて
藤本巽 (1年)	森の声 ぼくらの あしたへ つなげよう
梅原琢也 (2年)	いつまでも 守っていこう 緑の地球
三上美希 (3年)	温暖化をふせ 守ろう 地球
堀部竜誠 (3年)	木を植えて 緑をふやし 空気と川を きれいに
武田沙輝 (3年)	守ってね かがやく緑を いつまでも
武田玲菜 (4年)	育てよう わたしたちの緑 守ろう 森の命
堀部綾乃 (4年)	森の中 にこ笑う 緑と水と わたしたち
梅原圭祐 (4年)	ふやそう 緑 防ごう 温だん化
笹代博也 (5年)	なくそう 地球温だん化 みんなの力で ぼくたちの力で
笹代智也 (6年)	守ろうよ みんなの未来 緑を増やして 育てよう
堀部亘世 (6年)	広がれ 広がれ 緑あふれる 豊かな地球

クラブ活動を通して 地域とつながる

～クラブ活動は地域の先生で～



上小阿仁小・中学校支援地域本部

上小阿仁村立上小阿仁小・中学校



〈小中併設校〉

上小阿仁小・中学校は準へき地校であり、平成19年度に村にあった二つの小学校が統合し、中学校校舎を改築して小中併設校として3年目を迎えた。小中連携による9年間の見通しを持った教育活動を行っている。小中教諭による授業交流、生徒指導、合同行事(入学式・体育祭・学校祭等)、小中共通のPTA組織など小中併設校のメリットを最大限に生かすべく日々取り組んでいる。今年度の小学校児童103名、中学校生徒70名である。〈本校の学校支援地域本部〉

本校はこれまで地域人材と共に学ぶ活動をふるさと教育の一環として行ってきたが、この事業で組織が確立したことにより一層の充実が図られた。この事業を実施するに当たり、次のようなことに配慮した。

- ①地域人材活用は学習活動を中心に行うが、そのための連絡調整は地域コーディネーターの協力を得る。
- ②講演会やイベント的な事業は行わない
従って本事業の経費は地域コーディネーターの活動費と消耗品費のみである。

〈クラブ活動での地域人材の活用〉

今年度は、地域コーディネーターとのタイアップにより、地域人材の協力を得て学ぶクラブを検討した。その結果、子ども達の興味・関心の高い「自然観察」「スポーツ」「ハンドメイド」「ゲーム」の四つのクラブを行った。子ども達は地域の先生との触れ合いを通して活動への関心・意欲を高め、積極的に活動が行われた。

〈クラブ活動の実際〉

①自然観察クラブ

地域の先生に指導していただきながら、水田の生物調べ・水質調査・稲の生長観察などの活動を行い、クラブの最後には今までの活動をまとめて発表会を開いた。

②スポーツクラブ

ユニカール、ミニテニスなどのニュースポーツを指導していただいた。ユニカールでは村の同好者のグループとも交流し、一緒にゲームを楽しむこともできた。

③ハンドメイドクラブ

希望者が一番多かったため、3グループに分けて、さしこ、生け花、料理の3つを体験ができるようにした。さしこは、3人の地域の先生が丁寧に指導してくださったおかげで全員が作

品を完成させ、学校祭で展示することができた。生け花は、村の公民館講座で指導している地域の先生に来ていただいた。高価な花ではなく、庭先に咲いている草花を持ち寄って活動を行った。休日に家で庭の花を使って生ける子どももあり、活動が広がった。学校祭では食堂のテーブルに子ども達一人一人が生けた花を飾り、お客様に大好評だった。料理は作る献立によって地域の先生が変わり、バラエティ豊かな料理になり、子ども達は大喜びだった。

④ゲームクラブ

囲碁や将棋、トランプ、オセロ等を行った。囲碁の指導に地域の先生に来ていただき、簡単な歴史や基本的なルールを教えていただいた。囲碁を見るのもやるのも初めてという子どももいたが、最後には楽しんで一緒にゲームすることができた。

〈指導者との触れ合いのなべつこ会〉

クラブ活動でお世話になった地域の先生をなべつこ会に招待した。感謝の気持ちを込めて、お礼の手紙や活動の写真を差し上げた。一緒になべを食べて、交流を深めることできた。

〈成果〉

専門的な知識や技術を持った地域の方々が指導することにより、子どもの興味・関心に応じたクラブを設定でき、様々な体験をすることができた。子ども達はクラブを心待ちにし、意欲を最後まで持続し有意義な時間を過ごした。そして、自分たちの地域に素晴らしい方々がいることに気が付いたことも大きな収穫である。

また、地域コーディネーターが地域の方々と打ち合わせや細かい調整をしてくれるため、担当教師の負担が大きく軽減されたことは、学校にとって大変ありがたいことであった。

指導に来てくださった地域の方々は「子ども達から感性やパワーをもらった。」「子どもたちの新しいものを吸収したいという気持ちを感じる。」「学校がより身近になった。」と感想を話してくれている。

何よりも地域の方々が学校に来てくださる機会が多くなり、学校の様子をより知っていただけるようになったことと、地域の方々と子ども達・職員とのつながりができたことが、開かれた学校づくりの視点からも大きな成果があったと考えている。

上小阿仁小中学校地域支援本部事業

「学校の応援団」大募集！

やってみませんか！—学校支援ボランティア—

上小阿仁小中学校では、日頃、保護者の皆様、地域の皆様からさまざまな支援をいただ
いて教育活動を行っております。

来年度から、さらにそうした取組みを充実させ、地域ぐるみで子どもたちを育てるこ
とを目的に学校地域支援本部事業を始めることになりました。

子どもたちに自分の得意な技術・技能（書道、料理 etc）を見せてくださる方、図書の整
理や読み聞かせをしてくださる方、花壇や学校農園の指導、世話をしてくださる方、地域
の伝統芸能を伝えてくださる方、地域の自然を案内してくださる方、街探検に同行してく
ださる方、帰りのバスまで送ってくださる方、部活動を手伝ってくださる方など、子ども
たちの学習や活動を支援してくださる**学校支援ボランティア**を募集しています。

「子どもたちのために！」という方はぜひお申し出ください。
どうぞ、お気軽にご連絡ください。

<本件の申し込み・問い合わせ先>
上小阿仁村教育委員会 地域コーディネーター 小林 幹子
電話 0186-60-9000 FAX 0186-77-3223
上小阿仁小学校 教頭 河田 公映 電話 0186-77-2038

みんなで支える学校 みんなで育てる子ども

学校支援ボランティア募集ちらし

小林 佳代子様

さてを教えてくださいましてありがとうございます。
おかげでさてのやり方などよく分るようになりました。
最初は自分では完成できるかなと思いました。でも先生方
に教えてもらって上手に作ることもできます。このことを生活に
いかにしていきたいし、さいほうにもかしていきたいと思います。
私は家でさいほうをいっぱいやるので機会があったら
やりたいです。こんどは、いろいろな形や色などを変えて
作りたいです。
さてを教えてくださいましてありがとうございました。
本当に先生方と一緒にやれて、うれしかったです。
です。

上小阿仁小学校 児童 岡
児童のお礼の手紙



自然観察クラブ発表会



ハンドメイドクラブ：調理実習



スポーツクラブ：ミニテニス



ゲームクラブ：囲碁の指導

ペットボトルキャップの回収とリサイクル

～学校支援地域本部事業から
学習活動への広がり～

竹生小学校支援地域本部

能代市立竹生小学校



◇活動の紹介

(1)活動のきっかけ

昨年度の地域教育協議会の中で、「活動はしているが地域への働きかけが少ないのではないか。」という意見が出され、職員やPTA役員会で検討した。

(2)活動のねらい

地域に広くペットボトルキャップ回収を呼びかけ、環境問題やリサイクルに対する児童の意識高揚を図り、身近な問題として学習活動へと発展させる。

(3)活動の概要



回収されたペットボトルキャップ

10月までに1回目18kg、2回目28kg、トータルで920円の収益があり、これは575人分のポリオワクチンに相当する。(回収したキャップ約23,000個)

- ①子どもたちは児童会で呼びかけて、各自家庭で出されたペットボトルキャップを持ち寄っている。
- ②学区内7自治会長あてに、ペットボトルキャップ回収への協力について連自治会長を通して文書でお願いしている。
- ③地域住民に対して、地区にあるゴミ集積所に回収箱を設置して、竹生小学校支援地域本部だよりで呼びかけ、ゴミ出しのついでの時などに持ち寄ってもらっている。
- ④PTA環境保体部員等が、貯まり具合を見て地区の回収場所から学校へ持ってきてくれて

- ⑤集まったキャップを回収業者へ持参して換金し、世界の子どもたちにワクチンを送る運動をしているNPO法人へ、収益金を振り込んでいる。

(4)学習への広がりについて

- ①学校へ集まったペットボトルキャップの行方を知るため、4・5年生が総合的な学習の時間のテーマとして設定した。
- ②回収先の『エコプラッシュ』という能代市内の企業へ直接でかけて調査した。
- ③まとめ上げたものを学習発表会で発表した。地域の方々にとっても、集まったペットボトルキャップの行方を知ることができた貴重な機会となった。

学習発表会に参加した保護者の感想

4～6年になると内容ががらりと変わり、わずか数年でものすごい成長があるものと感心しました。大人でも初めて知ったことがたくさんあり、勉強になりました。

リサイクル運動が子どもたちの学習を深め、地域への広がりを見せてくれて大変うれしく思っている。また、11月に行われる能代市山本郡社会科学発表会に参加申し込みし、学習成果を発表する準備を進めていた。(発表会はインフルエンザ流行のため、やむなく中止となった。)

◇この活動を行って

(1)成果

- ・学校や地域を挙げて行う、身近で地味な活動が大きなことへつながるということを、身をもって知ることができた。
- ・学習成果を広く伝えることができ、開かれた学校づくりが推進された。
- ・この活動を通して地域へ情報発信することは、学校を理解してもらうことにつながり、地域からも大いに認められたと感じている。

(2)課題

- ・この取り組みだけに限れば、地域住民との直接的なふれあいが少ないことがあげられる。しかし、学習発表会で取り組みへの理解が深められたと思うので、今後は地域住民の協力増加や子どもたちへの声かけの増加など、波及効果が期待される。

●活動のようす●



【ペットボトルキャップのリサイクル企業にて】



【学習発表会で学習成果を発表】

ペットボトルキャップ回収箱

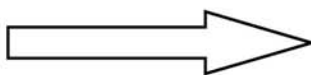
竹生小学校学校支援地域本部

ご協力ありがとうございます

【回収箱に貼付したPR用紙】



【ゴミ集積所に設置した回収箱】



リサイクルによりエコプラントーとして活用されている例



【協力依頼のチラシ】

【社会科研究発表会用に作成した資料（一部抜粋）】

竹生地域の皆様へ 竹生小学校学校支援地域本部 からのお願い

ペットボトルキャップ回収へご協力を！

昨年度から県の委託を受けて実施している学校支援地域本部事業で、今年度から竹生小学校で実施しているペットボトルキャップ回収へ協力することになりました。

竹生小学校区の皆様にもご協力をお願いし、成果をより大きなものにしたいと考えています。どうかよろしくお願いします。

※回収方法

各地区のゴミ集積所へ回収ボックス(写真参照)を取り付けますので、それに入れてください。

ある程度集まったら竹生小学校PTAで回収します。エコと福祉の学習にもつながります ご協力を！

集めたキャップは回収業者へ売却し、開発途上国の子どもたちにワクチンを送る運動をしている『世界の子どもにワクチンを日本委員会』へ寄付します。キャップ400個で10円になり、20円でワクチン1本分になるそうです。



お問い合わせ先：竹生小学校 電話 09-1343



③「世界の子どもにワクチンを」運動について
私たちは、「エコキャップ運動」についても教えてもらいました。「エコキャップ運動」とは、ペットボトルのキャップで世界の開発途上国の子どもたちにワクチンを届けようという運動です。キャップ400個(約1箱)で10円、ワクチンは一人分20円なので、キャップ800個で一人の子どもを救うことができるのだそうです。キャップを売ったお金を東京のNPO法人「世界の子どもにワクチンを日本委員会」へ寄付すると、そこから世界の子どもたちにワクチンが届けられるのだそうです。

四 感想

竹生小学校でこれまで集めたキャップの総重量は、46kgです。キャップ1個が約2.5gなので、数にすると約23,000個になります。7月と10月にキャップをエコプラントーに換えてきました。得たお金は、日本委員会に寄付します。エコプラントーの見学を通して、私たちが普段何気なく捨てているたのゴミが、きちんと処理することによっていろいろな物に再利用できるのだということを改めて感じました。小さな積み重ねでゴミを減らすこともできるし、環境を守ることもつながるということが分かりました。また、ペットボトルのキャップで世界の子どもたちを救うことができるなんて本当に驚きました。あと、プラスチックを出すときは、よく洗って、他の物が混じっていないか確かめてから出すようにしたいです。これからも自分たちでできる身近なエコから取り組んでいきたいと思っています。私たちの小さな一歩が大きな変化につながるのですから。

藤小支援地域本部主催 「なべっこ会2009」

～統合を機にPTA主導に
切り替えた親子レク！～



藤里小学校支援地域本部

藤里町立藤里小学校



◇活動の紹介

(1)統合をきっかけにPTAの全校レク

藤里小学校では、毎年学校行事として「なべっこ会」を開催してきた。平成20年度、米田小学校との統合により新藤里小学校がスタートした。それまで学年ごとに行っていたPTAレクを、親等の親睦も兼ねた全校レクとして開催したいと考え、「なべっこ会」を学校支援地域本部主催で開催することとした。

(2)活動のねらい

縦割り班の児童・親等の家族・教職員等が共に協力し合い、代表的な郷土料理「だまっこ鍋」を調理して食べることにより交流を深める。併せて、地域の産業や食文化について理解を深め、継承しようとする心を養う。



おばあさんと一緒にだまっこづくり

(3)取り組みの概要

①9月15日

児童を通じて各家庭に「なべっこ会2009」の日時決定のチラシを配布する。

②9月28日

「なべっこ会2009」の参加者募集チラシを、炊飯器・携帯用コンロ借用依頼と共に配布する。

③10月4日

参加者募集を締め切る。

④10月9日

炊飯器・携帯用コンロの不足分について、借用依頼のチラシを再度配布する。

⑤10月14日

参加者を最終確認し、当日の詳細について最

終のお知らせをする。

⑥10月17日

「なべっこ会2009」を開催する。子ども・大人合わせて約230名が参加する。

〈 9:30～ 9:45 開会行事〉

〈 9:45～11:30

だまっこ・出汁づくりなどの調理〉

〈11:30～13:00 会食〉

〈13:00～14:30 交流イベント

:ウォークラリー〉

〈14:30～15:00 閉会行事〉

⑦10月30日

会計報告を配布する。

(4)コーディネーターが担当した業務

- ・児童立て割り班の表作成
- ・各種チラシの作成
- ・借用物品や食材などの手配
- ・参加費の管理と会計全般
- ・全体計画や日程の調整 など

◇この活動を行って

(1)PTAの活性化につながる

この取り組みは、月～金曜日まで学校に常駐しているコーディネーターの存在なしでは実施できなかった。コーディネーターを中心にPTA主導で実施できたことは、学校側の負担が軽減されたことのほか、PTAの自発的な活動を助長し参加者増などの活性化という面で、大きな収穫となった。

(2)親子の交流を深めたウォークラリー

親子でゲームを楽しみながら地域を廻るウォークラリーは、普段なにげなく見過ごしている町内のことを再発見できる良い機会であった。

(3)参加者それぞれの活躍の場

テント設営やシート敷きなどの会場づくりでは父親が、だまっこや出汁づくりの調理では母親が活躍するなど、子どもを含めた参加者の活躍場面を考えることが大切ではないだろうか。最初は単なるお客さんとして参加する親も多いのではないかと心配したが、意外なことに昨年も今年も、率先して調理に参加する父親が多いことに驚いた。参加者それぞれの活躍の場があれば、PTA行事に積極的に参加してくれるのではないかと感じた。

●活動のようす●

【ウォークラリーに使用したカード】

PTAウォークラリー

みんなでなかよく ラケット・デ・ボン

・みんなでなかよくポイントを回しましょう。
・「秘密の時刻」にゴールすることをめざします。
・どこから始めてもOK！どんな順番でもOK！いくつでやめてもOK！
（※同じポイントは1回）
・「ラケット・デ・ボン」のポイントでは、交代して打ちましょう。
→打数を記録

番号	すること	記録	スタンプ
1	「ラケット・デ・ボン」①	打	
2	「ラケット・デ・ボン」②	打	
3	「ラケット・デ・ボン」③	打	
4	「ラケット・デ・ボン」④	打	
5	「ラケット・デ・ボン」⑤	打	
6	Q 畑 畑にある野菜を一つ書きま しょう。		
7	Q グラウンド タイヤとびのタイヤは、 いくつありますか。		
8	Q 緑等郵便局のポスト 土曜日に取り集める時刻 は、何時何分ですか。		
9	Q 鳥谷通神社 正しい作法で参拝しましょ う。		
10	Q ワークスペース おとなの人にインタビュー 「お誕生日は、いつ？」	名 姓 月 日	



ラケット・デ・ボン

スタッフの皆さん



ウォークラリー

【児童用なべっこ計画表】

さあ、みんなでなべっこをつくろう！

はん、なまえ

○なべっこをやる日 10月17日（土）

○なべっこをやる場所 藤里小学校の 中庭

○ふくそう ふだん着 ぼうし ジャンパー

○持ち物と役割分担

*6班と11班は、合体します。 *12班と21班も、合体します。
*兄弟・姉妹の班は、近くに場所をとりましょう。
特に、おうちの大人が参加しない場合は、お兄さん・お姉さん頑張って！

班	持 ち 物	数 量	準備する人	説 明
1	のみの		全 員	
2	くだもの		全 員	自分で食べられる分
3	しきもの		全 員	
4	はしとおわん		全 員	おうちの人の分も
5	ふきん		全 員	
6	ゴミぶくろ		全 員	家で学校のゴミ入れへ
7	ビニールぶくろ		全 員	資源を入れて帰ります
8	つけもの		全 員	自分で食べられる分
9	なべ	班1～2 ()		ふたのあるもの
10	おたま	班2つ ()		
11	さいばし	班2つ ()		
12	ボール	班2つ ()		

※班長さんたちへ、お願い
16日の3時過ぎが終わった「ふれあいルーム」へ来てください。
お米を渡します。
17日の朝までに、といてきてください。→17日の朝一番にスイッチを入れます。

【PTA用なべっこ案内ちらし】

平成21年 9月28日

PTA会員の皆様

藤里町立藤里小学校PTA
会長 斎藤 智博
（藤里小学校支援地域本部代表）

PTA親子レク「なべっこ会2009」参加者募集のお知らせ

貴校の後、皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
さて、9月15日のお知らせにありました「なべっこ会」について、参加者を募
ります。何かとご多忙の所とは存じますが、ぜひとも多くのご家族の皆様がご参加くださ
いますよう、ご案内申し上げます。なお、「なべっこ会」終了後の懇談会にも皆様お
願い合わせの上多数ご参加くださいますよう併せてご案内いたします。

1. 期 日 平成21年10月17日（土）
2. 日 程 ①「なべっこ会」 午前9時～午後3時
②「懇 談 会」 午後5時～
3. 場 所 藤里小学校中庭・体育館
4. その他 ・次のお知らせは10月9日（金）を予定しております。
・学年部長の皆様には、様々なご協力をいただくこととなりますが、
よろしくお願いいたします。

----- き り と り -----

「なべっこ会」参加届
※封筒にこの用紙と会費を入れて10月4日（日・藤里小）までにお届けください。

1 なべっこ会に参加する方のお名前 ↓ ○で記入してください。

1	幼児、小学生、中・高校生、大人
2	幼児、小学生、中・高校生、大人
3	幼児、小学生、中・高校生、大人
4	幼児、小学生、中・高校生、大人
5	幼児、小学生、中・高校生、大人

* 会費：児童・兄弟姉妹は一人200円、大人一人300円

2 当日、お貸しいただけるコンロをお持ちの方はお知らせください。
【貸し出しできるコンロがあります】
→ 卓上型力セットコンロ () づつ
ガスボンベ付きコンロ () づつ
その他 () が づつ

3 当日、お貸しいただける炊飯器をお持ちの方はお知らせください。
【貸し出しできる炊飯器があります】
→ 電気炊きことができますか () 升 合)
* 電源の数が限られますので、大きいもの（4合炊き以上）が適切です。

花いっぱい作戦で大活躍！ 「フラワー協力隊」

～みんなの手で
花いっぱいの明るい学校に～



山本中学校区支援地域本部

三種町立下岩川小学校



◇活動の紹介

(1)活動のねらい

1年を通して、全校児童と地域住民が協力して学校花壇の世話をすることで、植物を育てる優しい心と協力してくれる地域の方への感謝や尊敬の気持ちを育てる。

(2)「フラワー協力隊」の立ち上げ

①「フラワー協力隊」の募集（4月）

○次のことに協力できる方を募集する。

- ・都合のいい日に学校に出向いて、草取りができる方
- ・子どもたちの作業日（球根抜き、球根植え）に一緒に参加できる方
- ・土を耕す、追肥作業、花壇の片付けなどに協力できる方
- ・花壇についての相談にのることができる方

②「フラワー協力隊」名簿作成（16名の応募）と年間計画の説明

【「フラワー協力隊」にお願いしたこと】

☆みんなで育てる花壇

時間のあるときに草取り・水かけ・様々なアドバイスなど、積極的に関わりをもってもらいたい。

☆子どもたちの心を育てるために

作業に来たときは職員に一声かけてもらいたい。また、休日などの作業は、子どもを通じて知らせてほしい。子どもたちに、支えられている方々への感謝の念を抱かせるために、誰が作業してくれたかその都度伝えたい。

☆ちびっこ広場を交流の場に

ちびっこ広場に花壇関係の写真や子どもの感想を掲示し、机やイスを準備しているので、作業の合間や終了後に休憩場所として利用してもらいたい。また、協力隊の皆さんの交流の場としても活用してもらいたい。ノートを一冊用意しているので、気付いたことなど、自由に記入してもらいたい。

(3)「フラワー協力隊」の協力による花壇作業

①チューリップの球根ほり（5月22日）

○仕上げに「フラワー協力隊」が花壇を耕す

②祖父母と一緒に花壇作業（5月28日）

- 祖父母・父母あわせて28名の参加
- 児童による水かけ開始（登校時）

③「フラワー協力隊」の自主的な活動

- 花壇・農園の草取り（7月21日）
- 中庭の草取り（9月17日）

④花壇の苗の後始末（10月23日）

- 花壇の花の苗を全部抜く
- 「フラワー協力隊」が花壇を耕す

⑤チューリップの球根植え（11月8日）

(4)すぎのこ「花いっぱい作戦」コーナーの設置（児童昇降口のホール）

- 花壇・農園作業のようすを掲示
- 「フラワー協力隊」が来校したときにベンチでくつろげる場を設定

(5)ナベッコに「フラワー協力隊」をご招待

（10月16日）

- 1・2年生が育てたアサガオとヒマワリの種をプレゼント
- 縦割り班で行うナベッコの班に入ってもらい、ごちそうする

◇この活動を行って

(1)成果

- これまでは年1回「祖父母と一緒に花壇作業」のみであったが、年間を通した「フラワー協力隊」の活動により、例年以上にきれいな花壇を継続できた。
- 「フラワー協力隊」が学校に来た際に、生活科で行っている野菜栽培について教えてもらうことができた。中には休みの日などに野菜の手入れをしてくれる祖母もいて、お陰で立派な野菜が収穫できた。
- 子どもたちの感謝の気持ちを、ナベッコへの招待、そして子どもたちが育てた花の種のプレゼントという形で表したことで、子どもたちと「フラワー協力隊」の交流を図ることができた。「フラワー協力隊」の皆さんも大変喜んでくれた。

(2)課題

- 今年は6年生のおばあさんが中心となり、花壇作業等への参加の連絡をしてくれた。今後も「フラワー協力隊」が組織的に動けるような工夫が必要である。

●活動のようす●

5. 28 祖父母との花の苗植え



【すぎのこ「花いっぱい作戦」
コーナーの掲示】



「フラワー協力隊」と花の苗植
えを行った子どもたちの感想



【ナベッコへの招待状】



【子どもたちから
花の種をプレゼント】

「本の補修作業講習会」

～図書ボランティアを募り
図書室の蔵書を簡単補修～



水沢小学校支援地域本部 八峰町立水沢小学校



◇活動の紹介

(1)取り組むきっかけ

水沢小学校支援地域本部では、先生方からの要望も取り入れ学校支援ボランティア「水小おたすけたい」を募集している。授業や各種活動の補助等以外、学校全体として助けがほしいことの1つに学校図書室の蔵書等の整備が挙げられるため、改めて「本の補修作業ボランティア」を募集・活用することにした。

(2)活動のねらい

児童の読書活動推進にあたり読書環境を整備すると共に、保護者をはじめとする参加者の本に対する意識高揚及び参加者相互の親睦を図ることにより、学校の教育活動への関心を高める。

(3)取り組みの概要

①8月20日

県立図書館へ「本の補修作業講習会」での講師派遣を依頼する。

②8月26日

補修作業ボランティアへの協力お願いのチラシを、児童を通じて各家庭に配布する。町教委へ図書補助員の参加をお願いする。

③9月1日

参加者を増やすために、児童を通じて再度チラシを各家庭に配布する。コーディネーターが地域住民に参加呼びかけをする。

④9月7日

(13:30～15:00)

県立図書館図書資料班より講師2名を招き、補修作業の方法を教わり、実際に補修作業を行う。 ※「県出前講座」活用のため、講師謝金・旅費の費用は無料。

〈活動場所：水沢小ランチルーム〉

〈参加ボランティア数：11名〉



講師から補修方法を学ぶ

⑤9月8日

(10:00～11:30)

補修作業を行う。

〈活動場所：水沢小ランチルーム〉

〈参加ボランティア数：11名〉

(13:30～15:00)

補修作業を行う。

〈活動場所：水沢小ランチルーム〉

〈参加ボランティア数：9名〉

⑥9月9日

(10:00～11:30)

補修作業を行う。

〈活動場所：水沢小ランチルーム〉

〈参加ボランティア数：7名〉

(13:30～15:00)

補修作業を行う。

〈活動場所：水沢小ランチルーム〉

〈参加ボランティア数：10名〉

⑦9月11日

講師の県立図書館職員とボランティア参加者にお礼状を送付する。

☆補修作業に必要な消耗品等の準備は、コーディネーターが教頭と相談して行った。

◇この活動を行って

(1)活動時間帯を考慮

延べ60名余りのボランティアの協力があった。そのほとんどが母親と祖母であり、家事等の関係で参加しやすい時間帯を設定した。学校の都合優先ではなく家庭の都合に配慮することが、このような活動では必要ではないだろうか。また、終了後に振り返りの時間を設け、参加者がお茶を飲みながら交流できるよう試みた。

(2)参加者の声

「簡単な作業に見えるが、思ったより時間がかり大変だということがわかった。気長に取り組まないといけない。」などの感想が聞かれた。

(3)今後の予定

粘着テープや接着剤などは、図書委員会の児童も活用できるようにしている。今後は3学期に第2回補修作業を予定している。活動場所を1階ホールに変更して作業の様子を児童も見られるようにし、本を大切にすることを育んでいきたいと考えている。

地域に支えられた 「鍾馗様づくり」

～感謝の気持ちを込めて
学習発表会の劇で再現！～



埴川小学校支援地域本部 八峰町立埴川小学校



◇活動の紹介

【鍾馗とは・・・】

鍾馗は、唐の玄宗皇帝の夢に現れ、皇帝の病気を治したという進士鍾馗に基づく。主に中国や日本の民間伝承に纏わる道教系の神。日本では疱瘡除けや学業成就に効があるとされ、端午の節句に絵や人形を奉納したりする。また、鍾馗の図像は魔除けの効験があるとされている。

(1)地域との交流の歩み

埴川小学校では、平成元年頃から、地域の人材や素材を活用した各種活動が盛んに実施されるようになった。大信田地区老人クラブでは交通安全協会埴川支部と連携し、子どもたちの交通安全と健やかな成長を願い、鍾馗様を学校の横断歩道前に寄贈してくれた。それがきっかけとなり、子どもたちも鍾馗様づくりの一役を担うことにより、交流を一層深める活動へと進展していった。

(2)活動のねらい

昔から地区の厄除け・魔除けの神として祭られてきた鍾馗様づくりを通して、地域住民との交流を深めると共に、郷土の先人の願いに触れ安全で充実した生活を送ろうとする心を養う。

(3)取り組みの概要

①前年の稲刈り終了後

大信田地区老人クラブで、次の年の鍾馗様づくりで使用する稲ワラを確保する。

②5月末まで

コーディネーターの連絡調整により、鍾馗様づくりの日程を決定する。

大信田地区老人クラブで、鍾馗様の胴体部分を完成させる。



完成した鍾馗様の
顔と胴体

③6月4日

3年生が、総合的な学習の時間に老人クラブの講師の方から縄ないの指導を受け、鍾馗様づくりで交流する。2年生も生活科として縄ないに参加する。



縄のない方を学ぶ



講師のおばあさん方

④6月～12月

登下校の際には毎日鍾馗様を見て、安全で健康な生活ができるよう、子どもたちは自分の心に言い聞かせて過ごしている。



ついに鍾馗様が完成

⑤10月11日

学習発表会に大信田地区老人クラブや交通安全協会埴川支部の皆さんを招き、3、4年生が鍾馗様についての劇を披露した。

◇この活動を行って

(1)「学校支援地域本部推進事業」の効果

この取り組みは地域住民による純粋なボランティア活動だが、今年度は全面的にコーディネーターが連絡調整役を担ってくれた。学校側の負担が軽減されたことはもちろん、この事業の趣旨である人材育成という点で、今後後継者になるであろう住民が新たに参加してくれたことは、大きな収穫である。

(2)体験活動を深めた演劇

毎年恒例となっている活動だが、鍾馗様とは何か、なぜこの地区に代々伝えられているのかなど、劇にすることで子どもたちが理解できた。

(3)参加者の喜び

自分たちが携わった活動の劇を鑑賞することは、子どもたちからのこの上ないお礼であり、地域住民にとって大きな喜びとなった。

●活動のようす●



【学習発表会での劇の様子】



【子どもたちと一緒に活動することは、地域住民の大きな喜びとなります】

【学習発表会の劇シナリオ（一部）】

大信田 E テンシン
大信田 D じゃうだんはさておき。一人ずつ、何
大信田 C しているか教えて下さい。
大信田 B それで、せ、説明します。
大信田 A わたしは、鐘馗様を作っています。
大信田 B わたしがやっているのは、なわいとい
大信田 C 言う作業です。鐘馗様のいるなわいと
大信田 D わたしがやっているのは、こもあみと
大信田 E 言う作業です。どうしたいの部分を作
大信田 F っています。
大信田 G わたしは作っているのは、こしみの
大信田 H 部分です。
大信田 I わたしがやっているのは、さだらとい
大信田 J う作業です。わねの部分を作っていま
大信田 K す。
大信田 L このように鐘馗様は、毎年作り直して
大信田 M います。
大信田 N 毎年小学校にも鐘馗様の作り方を教え
大信田 O 春に作って、雪が降るまで小学校の前
大信田 P において、交通事故が起これないよう
大信田 Q に見守ってもらっているんですよ。
大信田 R そのおかげで内閣総理大臣賞ももらっ
大信田 S たし。おいだじもほごりに思ってる。

第3幕 (大信田の守り神)
司会 B あの鐘馗様にそんな伝説があったとは驚
大信田 A きですね。
アシスタント B わたしはじめて知りました。
大信田 C 司会 B では、どうして大信田に鐘馗様がまつら
大信田 D れるようになったかそのなぞにせまります。
アシスタント B ではまた再現 VTR をごらんくだ
大信田 E さい。
ナレーター (家来 A) これは、昔の大信田です。村
大信田 F 人達が集まって何か話しています。
大信田 G 最近、なんだが体の調子わりな。
大信田 H おお、まづもりんどこのせがれもなん
大信田 I だかわけわがねびようきになってしま
大信田 J った。
大信田 K おらんどこのじさまもからだにぶづ
大信田 L ぶでこの間、なぐなぐなぐな。
大信田 M なんだがうづるらしど、さいつけねば
大信田 N せば、そのうじ。おいんだもうづつて
大信田 O しまわったが。
大信田 P なんだがねば。
大信田 Q なんとがしねばな。
大信田 R おお、この間、江戸からたびしてきだ
大信田 S ひどにきいだけど、なんでも鐘馗様っ
大信田 T ていうひどの人形つくってあげば、い
大信田 U いんだや。

【鍾馗様づくりに参加し、
学習発表会で劇を鑑賞した方からのお礼の手紙】

埴川小学校
田村校長先生

拝啓

里山も色づき、美しい季節となりました。
先日は、学習発表会にお招きくださいまし
て、大変ありがとうございました。

私は今年初めて大信田老人クラブへ入会し
鍾馗様作りに参加しましたが、作るのにはど
とても難しいことに気がつきました。そして、
その鍾馗様を劇にしてくださると聞いて、ど
んなふうにも劇を作っているのかとても興味
がありました。三、四年生がまとまって、ど
てもわかりやすく見事な演技で会場をうなず
かせ、感動してしまいました。

大信田では今はあまり伝統芸能もなく、で
もこの鍾馗様作りが私たちの地区の伝統行
事なのだと、改めて感じたのです。本当に
ありがとうございました。

— — — — — 〈 中 略 〉 — — — — —

そして何より私が感動したのは、全校児童
の合唱でした。一人一人大きな口をあげ、一
生懸命歌っている姿に涙が出る思いでした。
ご指導してくださっている先生方、大変ご
苦労様でした。

かしこ